

研究通信①

1. 今年度研究推進委員会、研究分科会組織について

- 研究推進委員長
- 授業改善長 **A**
- 常時活動長 **B**

※全員がAとB両方に入る

研究推進委員会の役割

- ・先行研究の分析
- ・研究の方向性提案
- ・研究のスケジュール調整
- ・研究協議会の進行、記録
- ・研究発表に向けた資料作成（中間報告含む）

C 研究推進委員会

- ・小学校6名、幼稚園1名
- ・計7人

プロジェクト**A**の役割（授業提案）

- ・低学年
- ・中学年
- ・高学年
- ・初回は研推が実施する

A 授業改善

- ・低中高に専科は分かれて入る
- ・領域は問わない
- ・テーマに即した授業提案
- ・キーワードは「体の動かし方」「運動遊び」「成功体験」

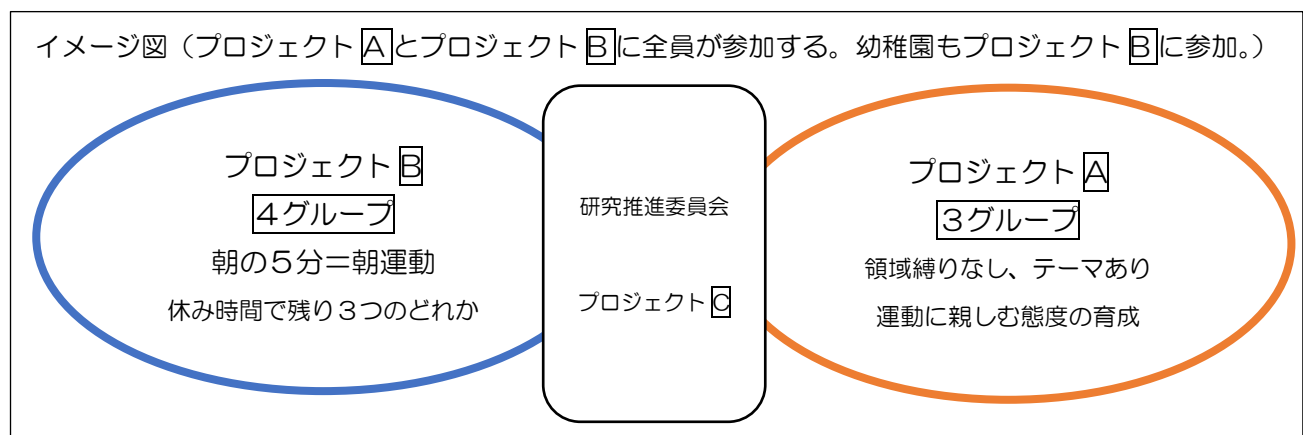
プロジェクト**B**の役割（常時活動提案）

- ・朝運動
- ・ギネス
- ・マラソン（走系統の運動）
- ・縄跳び

B 常時活動

- ・低中高専は問わない
- ・公開は研究授業前の休み時間を使う。
- ・通年の常時活動

イメージ図（プロジェクト**A**とプロジェクト**B**に全員が参加する。幼稚園もプロジェクト**B**に参加。）



組織編制表

グループ		研究視点	主な内容	日付	メンバー
プロジェクトA	研推	教材の提案 児童の意識の向上	授業提案 掲示物作成		
	低学年	教材の提案 児童の意識の向上	授業提案 掲示物作成		
	中学年	教材の提案 児童の意識の向上	授業提案 掲示物作成		
	高学年	教材の提案 児童の意識の向上	授業提案 掲示物作成		
プロジェクトB	朝運動	教材の検証 効果検証	新規提案 掲示物作成		
	ギネス	通年の取り組みへ改善 効果検証	改善提案 長期の取り組み 掲示物作成		
	マラソン 走運動	通年の取り組みへ改善 効果検証	改善提案 長期の取り組み 掲示物作成		
	縄跳び	通年の取り組みへ改善 効果検証	改善提案 長期の取り組み 掲示物作成		

※幼稚園は低学年分科会とプロジェクトBに参加し、幼児も一緒に取り組んでいく。

★プロジェクトC（研究発表会に向けたプロジェクト）→研推の役割

活動内容	研推	期日
スケジュール提案、進捗管理、総括		
学校プレゼンテーション		
中間報告（研究主任会1月）		
ブロック毎の発表内容企画、提案		
掲示物（プロジェクトBに関わるもの）提案、試作		
意識調査作成（フォームス）、集計、資料化		
体力向上を実感できる記録表（GIGA版）、分析		
リーフレット案（ページ割イメージ、概要）作成		
協議会記録、映像記録、編集、講師承諾		
研推だより作成（研推長→主幹→管理職）		

体力を向上させる

そのために…（R4 OJTより） 以下研究仮説

- ・運動する場所、機会を増やせば、自ら運動するようになり体力が向上する。
- ・体の動かし方がわかれば、運動ができるようになり体力が向上する。
- ・自分に合った課題で成功体験を積み重ねれば、運動ができるようになり体力が向上する。
- ・気軽に取り組める課題ならば努力するようになり、体力が向上する。
- ・結果が可視化できればやる気が起き、体力が向上する。

上記を受けて学校の手立ては大きく2つ

- ① 体育授業に上記の観点を取り入れて授業改善を行う。
- ② 学校全体として、上記の観点を取り入れた活動を企画し実現する。

体力向上のための研究視点

- A 児童（幼児）が取り掛かりやすい運動課題の設定、運動量の確保。
- B 体の動かし方が理解しやすい指導方法、場の設定。
- C 取組結果が可視化できる振り返りや環境の工夫。



研究テーマ（案）

**自ら課題を設定し、
運動の楽しさを味わいながら基礎体力の向上を目指す児童の育成**

授業提案のイメージ（・は提案内容の例）

- A 運動遊び（の要素）を取り入れ、運動課題に対して試行錯誤できる授業の提案
 - ・主運動につながる運動の工夫
 - ・個々の課題設定にかかる工夫
 - ・運動量の確保
- B 体の動かし方について、児童が理解できる指導の工夫の提案
 - ・協働的、対話的に体の動かし方を理解できる工夫
 - ・「する」「見る」「支える」「知る」の視点を生かした理解を深める工夫
 - ・児童に「気付かせる」「教える」を意図的に授業に組み込む
 - ・児童に対する言葉掛けの工夫
- C 体力向上に向けた児童の運動結果の可視化
 - ・振り返り時間の確保
 - ・運動への取組結果の蓄積、目標への到達度が分かる学習カードの工夫

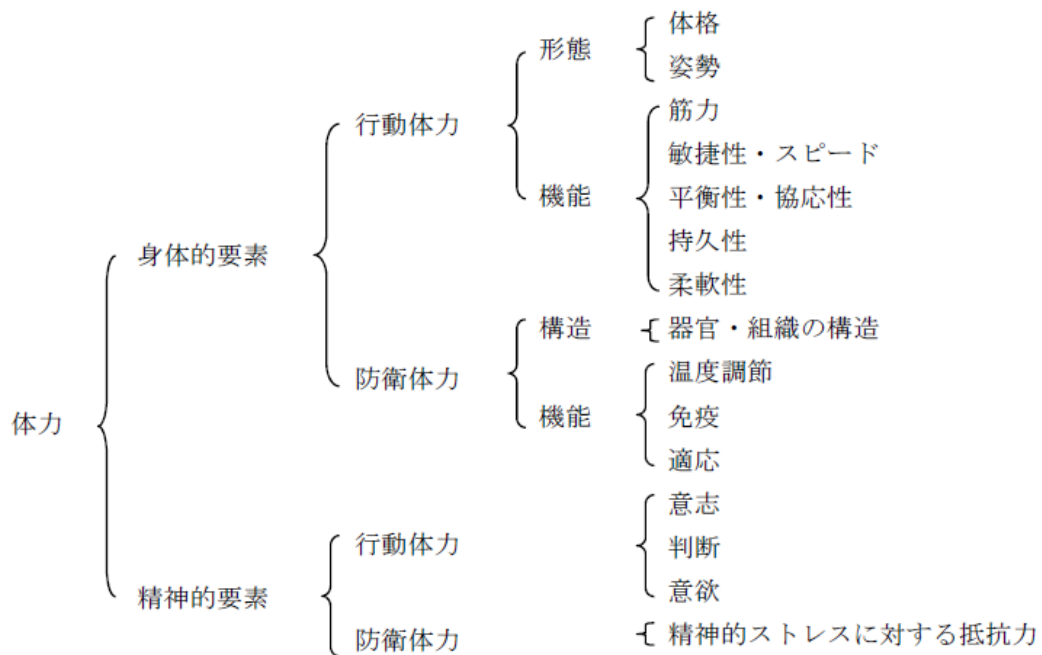
体育授業と常時活動を両輪として「もっと運動したい」「できるようになってきた」という思いを育て、運動経験の不足を補いながら成功体験を積みませ、基礎体力の向上につなげていく。

■ 今年度の研究日程と年間計画

主な内容		
○ 研究授業	○ 研究協議会・分科会の進行	○ 校内掲示作成
○ 常時活動案作成・提案	○ リーフレット・紀要案作成	○ 研究発表案作成
○ アンケート調査	○ 研究発表（中間）プレゼン作成	○ 児童用記録表作成（GIGA）

	研究推進委員会（担当業務）	研推・全体会日程	備考
4	・研究推進委員会発足	・研究の方向性決定 ・4/5(水)研究 →方向性確定	・4/28(金)研究主任会
5	・アンケート作成・実施・分析 ・校内掲示提案 ・GIGA 版記録表作成	・研究の全体像の共通理解 ・アンケート実施 ・(指導課打ち合わせ)	・5/8(月)研究全体会 →研究全体像提案 →アンケート項目検討 →プロジェクトB 提案
6	・研究全体会 6/8 講演：鈴木聡 先生 ・研究授業①6/28(水) 講師：小林 力 先生	・研究協議会（講師招聘） →6/8(木) 14：00 ・6/26(月)研推 →打合せ、アンケート結果確認	・朝運動スタート ・ギネススタート ・縄跳びスタート ・走運動スタート
7	・幼稚園との連携案提案	・7/19(水)研推 →幼稚園との連携方策決定	
8	・体カテストデータ分析（R4とR5 比較） ・発表内容案	・8/24(木)研推 →体力現状確認	
9	・研究授業②9/26(木) 講師：小林 力 先生	・研究協議会（講師招聘）	
10		・10/18(水)研推 →各 G 現状報告 →方向性修正	
11	・研究授業③11/17(金) 講師：小林 力 先生	・研究協議会（講師招聘） ・11/13(水)研推 →協議会打ち合わせ	
12		・12/25(月)研推 →冬休み宿題確認	
1	・1/29(火)中間報告会 ・リーフレット案	・1/5(金)研推 →宿題確認・学校評価 ・1/10(水)研推 →新年度計画	・1/29(火)研究主任会 →要 PP 資料
2	・研究授業④2/1(金) 講師：小林 力 先生 ・アンケート作成（4月と同様） ・アンケート分析（4月からの変容）	・研究協議会（講師招聘） ・アンケート実施 ・指導課打ち合わせ ・2/5(月)研推 →中間報告リハーサル	
3	・成果と課題 ・研究の方向性修正	・仮説に対する成果と課題 ・3/18(月)研究（まとめ） →1年目の成果と課題	

基礎体力の捉えについて



出典：猪飼道夫「運動生理学入門」杏林書院 1969年

行動体力の要素である「筋力」「敏捷性・スピード」「平衡性・協応性」「持久性」「柔軟性」を以下のように分類し、4つの観点で基礎体力として捉えなおす。

